

# 施策評価シート

幹事部局

環境生活部

<b>施策の名称</b>	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用
<b>施策の目的</b>	心豊かに暮らすために身近な自然環境を保全し、また、人々の活動の舞台として、歴史・文化で彩られた自然景観や色々な動植物が生きる自然環境の魅力を活用します。
<b>施策の現状 に対する評価</b>	<p>①(自然保護に対する県民意識の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアや地域住民が連携して活動を行うことで、自然保護に対する県民意識は高まりつつある。鳥獣保護については、計画的に保護区を指定している一方、農作物被害等により住民理解が得られにくくなっている。また、宍道湖・中海の利用促進については、両湖の魅力を伝えるスポットとなる公園や施設のPRが不足している。県民の意識・理解を醸成するため持続的な取組が課題である。</li> </ul> <p>②(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習施設では、企画展や自然とふれあいイベントの開催等により自然観察や環境学習の機会創出に貢献しているが、新型コロナの影響により自然公園や学習施設の利用者数は減少した。減少傾向にある入館者数の増加に向けた取組が課題である。</li> </ul> <p>③(自然の活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>しまねの自然公園満喫プロジェクトでは、体験プログラム造成やガイド養成への支援を通じて利用促進を図っているが、来訪者は伸び悩んでおり、効果的な取組が課題である。</li> <li>隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、認知度不足等により交流人口などの具体的な数値に結果が表れていない。ソフト・ハード両面の受入環境整備や、情報発信を通じて誘客増に向けた取組の継続が課題である。</li> </ul> <p>(前年度の評価後に見直した点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然保護団体による保全活動や自然観察会を支援することで、活動の活性化や自然環境の保全への関心度の向上を図っている。</li> <li>各施設においては、展示施設などの施設・設備の整備を行うことで魅力向上を図るほか、施設や自然の魅力をPRするため、展示や情報発信手法の検討、SNSの効果的な活用など、誘客・集客増に向けた取組を行っている。</li> </ul>
<b>今後の取組 の方向性</b>	<p>①(自然保護に対する県民意識の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの育成研修や保護活動の実施・参加への呼びかけを継続し、担い手育成と人材の掘り起こしを行う。また、生物多様性への理解促進や持続的な保全活動が可能となるよう、県民の関心度や意識の向上を図っていく。</li> <li>鳥獣の被害対策と保護管理を両立するため、生息動向の把握に努め、保護活動や被害対策の事業を実施し、住民理解を得るよう努める。宍道湖・中海の利用促進については、関連施設と連携したPRを行う等により来訪者の増と認知度向上に取り組む。</li> </ul> <p>②(自然公園等での自然体験の促進や自然学習の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自然公園や三瓶自然館、宍道湖自然館、しまね海洋館、花ふれあい公園の各施設においては、新たな魅力を感じてもらえるよう、施設の整備や、各種イベントの開催、情報発信の強化などに取り組み、利用者の増加を図る。</li> </ul> <p>③(自然の活用の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナへの対応を踏まえつつ、しまねの自然公園満喫プロジェクトにおいては、体験プログラムの充実やガイド養成等をさらに進め、国内外からの誘客の回復・拡大を図る。また、隠岐ユネスコ世界ジオパークでは、ユネスコによる4年に1度の再認定に向けて必要な環境整備を行うとともに、ガイド養成など観光誘客の取組を強化し、認知度及び来島者の満足度向上に繋げる。</li> </ul>



事務事業の一覧

施策の名称		VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用				
	事務事業の名称	目的		前年度の 事業費 (千円)	今年度の 事業費 (千円)	所管課名
		誰(何)を対象として	どういう状態を目指すのか			
1	県立しまね海洋館の管理運営	県民及び県を訪れる人々	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。	413973	499312	しまね暮らし推進課
2	自然保護のための情報収集・整理事業	県内の自然情報	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。	2988	3859	自然環境課
3	自然環境保全地域の保全事業	自然環境保全地域の自然環境	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。	961	978	自然環境課
4	レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業	レッドデータ生物の生息・生育環境	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する	3,099	5,332	自然環境課
5	県民参加による自然保護活動事業	県民や地域の活動団体	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。	3,660	3623	自然環境課
6	自然公園管理事業	自然公園利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	99898	119594	自然環境課
7	中国自然歩道管理事業	中国自然歩道の利用者	安全で快適な利用の確保を図る。	8263	6913	自然環境課
8	三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業	県民及び県を訪れる人々	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。	344820	489932	自然環境課
9	隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る	51682	89257	自然環境課
10	しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す	333560	188908	自然環境課
11	宍道湖・中海賢明利用推進事業	県民、民間団体等	宍道湖・中海において、ラムサール条約の趣旨である「環境の保全・再生」と「賢明な利用(ワズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。	6728	5722	環境政策課
12	野生鳥獣保護対策事業	野生鳥獣	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。	49203	29732	農林水産総務課
13	花ふれあい公園事業	県民	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興	94836	85135	産地支援課
14	宍道湖自然館管理運営事務	一般来館者、一般県民	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。	129190	120103	水産課
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

しまね暮らし推進課

事務事業の名称		県立しまね海洋館の管理運営			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	日本海を中心とした水生生物を間近で見ることのできる場を創出し、自然学習の機会や遊空間を広く県民等に提供する。		413,972	499,312
			うち一般財源 (千円)	413,972	499,312
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>水生生物等の展示、調査研究、学習機会の整備、意識啓発などを行うため、指定管理者制度により施設の管理運営を実施</li> <li>指定管理者制度の円滑な運営にあたり、指定管理者である公益財団法人しまね海洋館との連絡調整や、老朽化した備品等の更新・修繕を実施</li> <li>入館者数の回復・拡大を図るため、しまね海洋館の魅力向上に資する設備を導入</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築基準法施行令の改正に伴う特定天井改修のため、関係機関との調整や予算要求作業等を経て改修工事に着手</li> <li>しまね海洋館の集客対策として、展示生物の充実や広報媒体の刷新等を実施</li> </ul>				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	県立しまね海洋館の入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		36.2	36.2	36.2	36.2	36.2	万人	単年度値
		実績値		34.6	20.9					
		達成率		—	57.8	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率		—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館により、前年比で4月:33,342人、5月:48,776人の減</li> <li>同感染拡大の第2波、第3波の影響を受け、前年比で8月:44,614人、12月:5,047人、1月:11,923人の減</li> <li>県内や近県からの修学旅行生の増加により、前年比で10月:142人、11月:5,724人の増</li> <li>感染症対策を取りつつ、学習機会の提供として各種教育活動の受け入れや出張講話等を実施</li> <li>R元年:147件 5,283名 R2年:148件 4,708名</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症対策として、職員及び入館者への注意喚起や券売機のキャッシュレス化等を実施することにより、新型コロナウイルスの感染事例は発生していない状況</li> <li>入館者の安全確保と入館者数の回復・拡大を図るため、演出が可能な照明等の整備を含む特定天井改修に着手。R3年度に工事完了の予定</li> <li>入館者の回復・拡大のための魅力アップ事業(プロジェクションマッピングの導入、クラゲ水槽の新設、水槽照明の増設、新CM・新パンフレットの作成等)に着手。R3年度に事業完了の予定</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数が減少傾向である。</li> <li>施設の老朽化や生物の繁殖・飼育、健康管理、展示等に必要な備品等が不足している。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>他地域で新たな水族館が開館している。</li> <li>パフォーマンス等が恒常化している。</li> <li>飼育や展示等に必要な備品等が多数あるため、購入・更新できる備品が限定される。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクションマッピングの導入やクラゲ水槽の新設等の魅力アップ事業を着実に履行し、積極的に情報発信を行い集客に繋げる。</li> <li>施設設備の現況を把握し、老朽箇所を長寿命化計画により修繕していく。</li> <li>計画的に備品等を購入・更新する。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然保護のための情報収集・整理事業			
目的	誰(何)を対象として	県内の自然情報	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然保護に関する情報を収集、整理し、保護対策の資料とする。		2,988	3,859
			うち一般財源 (千円)	2,988	3,859
今年度の取組内容	生物多様性の実現に向け、自然環境保全施策を推進するために、県内に生息する多種多様な野生動植物及び地理に関するデータを収集・整理する。 島根県自然環境保全条例に基づく県内6箇所の環境保全地域及び保全計画に関するデータを整理し活用する。 島根県立自然公園条例に基づき変更した公園計画及び公園事業に関するデータを整理し、活用する。 開発事業者に対して希少な野生動植物及び公園区域、保全地域に関する情報提供を行うとともに、その保護に関する指導を行う。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・希少な野生動植物を保護し良好な自然環境を保全するため、自然環境保全地域の区域の情報をGISデータとして整備し、今後の活用及び情報提供に向けて整備を行う。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4						
		達成率	—	103.7	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県自然環境保全条例に基づく許認可件数(令和2年度 3件) ・自然公園法及び島根県立自然公園条例に基づく許認可件数(令和2年度 49件)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・開発事業者等からの問い合わせ(事業区域内における公園区域の有無や希少野生動植物の生息・生育の有無、影響の回避低減)に対して、的確に対応した。 ・国立公園、国定公園、県立自然公園の公園区域及び利用計画に基づく施設を統合型GIS上に整備し、保全すべき区域を速やかに判断できるようになった。 ・適正な自然公園の保護及び活用に向け、公園計画の一部変更及び公園事業の一部変更を行った。
課題分析	① 課題	・島根県自然環境保全条例に基づく環境保全地域及び保全計画に関するデータが保全活動等に活かされていない。 ・国定公園の公園計画や島根県立自然公園条例の公園計画に関するデータが適正な公園利用につなげられていない。
	② 原因	・島根県自然環境保全地域について区域情報等のデジタル化が行われていない。 ・国定公園、県立自然公園事業について、統合型GISと連携したデータ整理が十分されていない。
	③ 方向性	・自然環境保全地域について統合型GISに登載し、閲覧可能とするなど情報を整理・公開し、保全活動等への活用をすすめる。 ・国定公園、県立自然公園に係る情報を整理し、統合型GISと連携させ適正な公園利用につなげる。 ・県が集積した各種自然保護に関するデータを整理し、統合型GISに登載、県民の自然保護への関心度の向上と意識の高揚を図る。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然環境保全地域の保全事業			
目的	誰(何)を対象として	自然環境保全地域の自然環境	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	優れた自然環境の保全や多様な生態系を守る必要がある地域として県条例により指定した自然環境保全地域の自然を保全する。		961	978
			うち一般財源 (千円)	961	978
今年度の取組内容	「島根県自然環境保全条例」に基づき指定している「島根県自然環境保全地域」の適正な保全を図るため、地元の保護育成団体等に保護管理を委託するとともに、自然保護指導員を配置し、巡視活動等を実施する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	地元ボランティア団体からの提案による施設整備事業を、団体に委託することにより看板等の施設の修繕を実施する				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4						
		達成率	—	103.7	—	—	—	—		
2		目標値							%	
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・自然保護レンジャーや行政機関職員等の協力により地元保護育成会の活動を支え、自然環境保全地域の環境保全が図られている。
課題分析	① 課題	・希少種の保護を担っている地元保護育成会や自然保護レンジャーの活動の縮小が懸念される ・専門的知見に基づく保全活動が行われていない
	② 原因	・人口減少と高齢化により、地元保護育成会や自然保護レンジャーの担い手が減少 ・「自然環境保全地域」の周知が十分でなく、その希少性が伝わっていない ・専門家による保護・保全状況の把握が十分なされていない
	③ 方向性	・自然保護活動の新たな担い手となり得る人材の育成と継続的な研修の実施 ・自然科学系博物館からの職員派遣により保全活動の状況を確認し、より効果的な保全活動の実施する ・「自然環境保全地域」の周知に努め、自然保護活動の実践者の増加を図る

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		レッドデータ生物に関する調査・研究・保護事業			
目的	誰(何)を対象として	レッドデータ生物の生息・生育環境	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県民等との協働により生物多様性を確保し、健全な自然環境を次代に継承する		3,099	5,332
			うち一般財源 (千円)	2,364	2,782
今年度の取組内容	「島根県希少野生動植物の保護に関する条例」で指定している希少野生動植物について、生息・生育環境の調査を実施し、地元住民等関係者と連携した保護対策を実施する。				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	レッドデータ生物を含む生物多様性の主流化に向け令和3年3月に「しまね生物多様性地域戦略」を策定し、生物多様性の保全および持続可能な利用に関する施策により、自然環境の保全関心度向上を図る。				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	島根県の自然環境の保全についての関心度【当該年度8月時点】	目標値		65.0	70.0	75.0	80.0	85.0	%	単年度値
		実績値	61.3	67.4						
		達成率	—	103.7	—	—	—	—		
2	指定希少野生動植物の指定数【3月末時点】	目標値		5.0	5.0	6.0	6.0	7.0	種	累計値
		実績値	5.0	5.0						
		達成率	—	100.0	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定希少野生動植物について、関係機関および地元住民を中心とする保護巡視員・団体等で巡視活動を定期実施。</li> <li>野外における危険生物に関するガイドブックの発行および生物多様性に関する新聞広報を実施。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</li> <li>生物多様性の劣化(開発や乱獲などによる生物の種の減少・絶滅、生息地の環境劣化)</li> <li>自然の魅力を伝えられる人材や保護巡視員、自然保護レンジャーの高齢化</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記①(課題)が発生している原因</li> <li>レッドデータブック掲載種などの希少野生動植物の保護や自然環境の保全に関する県民の関心度が十分に高いとは言えず、特に若い世代の自然保護等に対する理解が得られておらず行動に反映されていない。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>レッドデータブックの改訂により、現状の基礎調査を実施し、指定種の追加検討や保全体制づくりを実施。</li> <li>「しまね生物多様性地域戦略」の普及(レッドデータブックの周知や自然保護活動の紹介、自然観察会の実施)などにより、県民の自然環境の保全への関心度や意識の向上を図る。</li> <li>関心度向上により、将来の保護活動ニーズ(巡視員やレンジャー等)の掘り起こし。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		県民参加による自然保護活動事業			
目的	誰(何)を対象として	県民や地域の活動団体	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	地域住民が主体的に取り組む自然保護活動等への参加者数、活動回数を増やし、持続可能な自然保護活動と県民の自然保護意識の醸成を図る。		3,660	3,623
			うち一般財源 (千円)	3,160	2,523
今年度の取組内容		自然保護活動団体等が行う自然保護活動や自然体験活動への支援を行う。 自然保護レンジャー等へ各種情報提供などを行い、巡視活動や自然保護活動への参加を推進する。 自然保護ボランティアのための研修を行い、自然保護活動の担い手の育成確保を行う。			
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと		自然保護活動団体等からの提案事業による施設整備事業を団体に委託して実施することにより、団体の活動の活性化を図る			
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	IV-1-(2) 地域で活躍する人づくり	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然保護ボランティアの活動日数(年間)【当該年度4月～3月】	目標値		400.0	520.0	560.0	600.0	650.0	人日	単年度値
		実績値	630.0	933.0						
		達成率	—	233.3	—	—	—	—		
2	「みんなで守る郷土の自然」等地域の新規選定数(令和元年度からの累計値)【3月末時点】	目標値		2.0	4.0	6.0	8.0	10.0	地域	累計値
		実績値	1.0	1.0						
		達成率	—	50.0	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実										

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然保護ボランティアの活動日数は増加してきている(令和2年度に、新たに2団体が野生動植物巡視員として登録)</li> <li>自然観察指導員研修には定員を上回る受講申し込みがある(定員45名 申込61名)</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>「みんなで守る郷土の自然」等要綱で指定した地域や自然環境保全地域を守っている地元団体の活動が、希少野生動植物の保護や自然保護県民の自然保護意識の醸成に十分生かされていない。</li> <li>地元の活動団体の活動の縮小が懸念される</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>要綱で指定した地域や、自然環境保全地域を守っている関係団体の状況把握等が十分出来ておらず、活動の状況把握、効果的な事業が実施出来ていない。</li> <li>人口減少と高齢化により、地元の活動団体の担い手が減少</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>要綱で指定した地域、関係団体の状況把握を行い、地域、関係団体の活動の支援、周知に努める</li> <li>関係団体の新たな担い手となり得る人材の育成と継続的な研修の実施</li> <li>県からの団体へ委託事業による自然観察会を実施し、地元自然保護団体の活性化を図る</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		自然公園管理事業			
目的	誰(何)を対象として	自然公園利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		99,898	119,594
			うち一般財源 (千円)	13,133	33,894
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の自然公園(国立公園、国定公園、県立自然公園)に県が整備した施設(遊歩道、駐車場、公衆トイレなど)について、地元市町村に除草、清掃やパトロール等、施設の日常管理を委託。</li> <li>・快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。</li> <li>・自然公園の利活用と誘客促進のため、民間団体による施設・設備等の環境整備を実施し自然公園の魅力向上を図る。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	民間団体が実施する公園施設の整備や保全活動への取組に対する支援制度を創設				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	自然公園の利用者数(令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		12,800.0	14,900.0	26,500.0	37,500.0	47,900.0	千人	累計値
		実績値	11,760.0	8,824.0						
		達成率	—	69.0	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R1 32,990千人地点】→【R2 21,318千人地点】(対前年比:▲35.4%)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえてし、緊急性の高い箇所から修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。</li> <li>・眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、自然公園の魅力向上を図った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。</li> <li>・草木の繁茂により眺望が阻害されている箇所が多数あり、全てのニーズに対応できない状況にある。</li> <li>・公園内の歩道等は、利用が低迷して殆ど人が通らない箇所がある。</li> <li>・市町村への管理委託の内容について見直す必要がある。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理する施設の数が多く、全体的に施設の老朽化が進んでいる。</li> <li>・地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。</li> <li>・対象地域が広く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。</li> <li>・労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が増嵩している。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。</li> <li>・管理を委託している市町村と連携し、地元市町村等の協力を得ながら管理運営をしていく。</li> <li>・満喫プロジェクト関連事業との連携や民間団体が実施する取組を通じて、安心・安全で快適な施設の整備を行っていく。</li> <li>・老朽化の状況や利用頻度等を踏まえ、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、利用が低調な施設については、今後のあり方を検討していく。</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		中国自然歩道管理事業			
目的	誰(何)を対象として	中国自然歩道の利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	安全で快適な利用の確保を図る。		8,263	6,913
			うち一般財源 (千円)	8,263	6,913
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内の中国自然歩道のうち、県が整備した主にモデルコースとなっている歩道区間・施設について、地元市町村に除草・清掃やパトロール等、施設の日常管理を委託。</li> <li>快適な利用ができるよう老朽化施設の修繕など維持管理を行うとともに自然災害などによる倒木・落石等の処理を行い、安心・安全な利用が出来るよう維持管理に努める。</li> <li>パンフレットの作成・配布、県ホームページを活用して利用促進に向け情報発信する。</li> <li>中国自然歩道の利活用と誘客促進のため、民間団体による施設・設備等の環境整備を実施し魅力向上を図る。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	民間団体が実施する施設の整備や保全活動への取組に対する支援制度を創設				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	中国自然歩道の利用者数(令和2年度からの累計値)【12月末時点】	目標値		580.0	680.0	1,230.0	1,760.0	2,280.0	千人	累計値
		実績値	502.6	405.3						
		達成率	—	69.9	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		島根県観光動態調査 観光入込客延べ数【R1 32,990千人地点】→【R2 21,311千人地点】(対前年比:▲35.4%)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村等と連携して危険が生じた箇所を速やかに規制したり、施設の老朽化の状況や利用頻度等を踏まえてし、緊急性の高いところから修繕や倒木処理等を行い、利用者の安全を確保した。</li> <li>眺望を阻害する立木の伐採や除草作業など、景観の美化を行うことで、中国自然歩道の快適性や魅力向上を図った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者や自然保護レンジャー等から、施設の破損や不具合、自然災害による倒木・落石・草木の繁茂などについて多数の情報提供や苦情がある。</li> <li>草木の繁茂により眺望が阻害されているところが多数あり、全てのニーズに対応できない状況である。</li> <li>ルートの間隔によっては、利用が低迷して殆ど人が通らない箇所がある。</li> <li>市町村への管理委託の内容について見直す必要がある。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に施設の老朽化が進んでいる。</li> <li>地震や大雨、大雪などの自然災害による倒木・落石などが多数発生している。</li> <li>対象区間が長く施設も多い中で、事業費・体制不足等により、不具合が生じた箇所から修繕していくことで手一杯な状況である。</li> <li>労務単価の上昇により、草刈等管理委託料が増嵩している。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な維持管理、施設修繕、倒木・落石処理などを行う予算を十分に確保し、安心・安全な利用ができるよう整備に努める。</li> <li>管理を委託している市町村と連携し、地元市町村等の協力を得ながら管理運営をしていく。</li> <li>満喫プロジェクト関連事業との連携や民間団体が実施する取組を通じて、安心・安全で快適な施設の整備を行っていく。</li> <li>老朽化の状況や利用頻度等を踏まえ、緊急度の高い箇所から修繕を進めるとともに、利用が低調な施設については、今後のあり方を検討していく。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		三瓶自然館サヒメル等の施設管理運営事業			
目的	誰(何)を対象として	県民及び県を訪れる人々	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	自然についての体験や学習を通じて、自然保護の重要性などを理解してもらう。		344,820	489,932
			うち一般財源 (千円)	318,634	348,620
今年度の取組内容	1. 三瓶自然館及びその附属施設について、指定管理者と協力して以下の事業を実施 ①企画展(春、夏、秋、冬の4回)・自然観察会・天体観察会の開催、開館30周年記念式典の実施 ②各種イベントを通じて自然に対する理解を深める取組の実施 ③島根県の自然系博物館としての調査研究 ④各種広報活動(PR活動、新聞への寄稿、CATV番組の提供など) ⑤三瓶自然館及びその附属施設の整備と維持管理 2. 小豆原埋没林の保存対策と集客増 ①ガイダンス棟を活用した集客増対策 ②展示棟外の保存対策工事 ③保存状態のモニタリング				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・三瓶自然館の誘客対策として、ビジュアルドームの鑑賞環境向上のための施設改修を事業化 ・三瓶小豆原埋没林公園の誘客対策として、ガイダンス解説の充実や展示機能の強化のための施設整備を事業化				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(1) 牽引力のある都市部の発展	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	三瓶自然館サヒメル及び小豆原埋没林公園入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		162.0	162.0	162.0	162.0	162.0	千人	単年度 値
		実績値	100.9	95.8						
		達成率	—	59.2	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		・三瓶自然館は、施設の改修工事のため令和元年11月11日から4月15日まで休館した。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため4月16日から5月31日まで休館した。 ・小豆原埋没林公園は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため4月11日から5月31日まで休館した。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数は落ち込んだが、秋以降は県内を中心に修学旅行での利用が大幅に増加した。								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・三瓶自然館は令和元年度に実施した展示改修工事が完了し、展示・解説機能を一新してリニューアルオープンした。 ・企画展の内容をより深く理解してもらうための関連イベントや、季節毎の自然観察会、体験イベントを開催した。 ・小豆原埋没林公園はガイダンス棟の整備が完了し、来館者への解説・学習利用への活用が進んだ。
課題分析	①課題	・冬期や企画展を実施しない期間の来館者数が少ない。 ・外国人の施設利用が少ない。また、小豆原埋没林公園は低年齢層の来館者数が少ない。 ・埋没林の学術的価値が十分に伝えられていない。
	②原因	・展示施設の改修は行ったが、三瓶自然館のビジュアルドームなど、一部の施設・設備の老朽化・陳腐化が進んでいる。 ・小豆原埋没林公園は、楽しみながら学べる展示解説機能の整備が十分でない。
	③方向性	・三瓶自然館では、リニューアルした展示施設を活用し、来館者の増加に取り組む。 ・三瓶自然館のビジュアルドーム設備や小豆原埋没林公園の展示解説機能の改修・充実に取り組む。 ・小豆原埋没林公園は、埋没木の保存対策及び保存状態のモニタリングを継続して実施する。 ・新規来館者の呼び込み対策として、ホームページやSNSによる情報発信の充実や各メディアの活用を図るほか、大田市や観光協会による日本遺産と連携した広報に取り組む。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		隠岐ユネスコ世界ジオパーク活用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	隠岐地域に住む人、隠岐地域を訪れる人	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	隠岐ユネスコ世界ジオパークの取組を通じて、持続可能な経済活動や文化活動を推進することにより、隠岐地域の活性化と振興を図る		51,682	89,257
			うち一般財源 (千円)	28,621	42,235
今年度の取組内容	(一社)隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会と連携し、地域振興、観光振興、保全保護、調査研究、教育・人材育成のための取組を実施 ①隠岐ユネスコ世界ジオパークを運営する推進協議会の運営経費の一部負担 ②隠岐ユネスコ世界ジオパーク内のジオサイトの施設整備 ③県内外への情報発信、他のジオパークやそれを有する自治体や運営組織などと連携した認知度向上の取組 ④拠点施設・中核施設の整備を支援(隠岐の島町、海士町) ⑤隠岐ユネスコ世界ジオパークでの島根の子供を対象とした体験学習の実施 ⑥隠岐ユネスコ世界ジオパーク再認定審査に向けた対応				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	前回認定時の指摘事項である展示施設や解説看板・誘導標識、ジオサイトの再整備等の計画を検討し、再認定支援事業として事業化				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会ホームページのPV数【当該年度4月～3月】	目標値		280,000.0	360,000.0	440,000.0	520,000.0	600,000.0	PV数	単年度値
		実績値	214,626.0	200,437.0						
		達成率	—	71.6	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		○平成30年1月にユネスコ世界ジオパークとして再認定(次回再認定は令和3年度) ○隠岐地域の観光入込客延べ数:H30年168千人→R元年167千人→R2年度:92千人(観光動態調査結果) ○交流人口数(推定入島客数):H30年度:124千人→R元年度:123千人→R2年度:66千人 ○隠岐を訪れる外国人観光客:H30年度:911人→R元年度:1,133人→R2年度:96人(いずれも隠岐汽船利用者のみ)								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	○令和3年度のユネスコ世界ジオパークの再認定に向けて、平成29年7月の再認定審査における指摘事項(展示施設の整備、誘導標識・サイト看板の整備、地質遺産の教育促進等)について対応中または対応済
課題分析	① 課題	○隠岐ユネスコ世界ジオパークの認知度がまだ低い ○隠岐での滞在を延ばすような体験コンテンツやトレッキングツアーなどが不足している
	② 原因	○隠岐ユネスコ世界ジオパークの魅力ある自然景観などが観光資源として活用できていない ○災害により施設の利用に支障があるため、活用できないジオサイトがある ○ホームページやインターネットを利用した情報発信方法が不十分
	③ 方向性	引き続き以下の分野を柱とする具体的な事業を隠岐4町村及びジオパーク推進協議会と連携して取組む ・認定ガイドの養成やジオパーク関連商品の開発による来島者の満足度向上 ・DMO化による観光誘客の取組を強化 ・再認定支援事業としてジオサイトを整備

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

自然環境課

事務事業の名称		しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業			
目的	誰(何)を対象として	外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す		333,560	188,908
			うち一般財源 (千円)	31,288	33,546
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の自然公園への誘客促進に向け、地元協議会や市町村、民間事業者が連携して取り組む、自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などへの支援</li> <li>・自然公園の魅力発信のため、満喫プロジェクトHPのコンテンツ作成と広域モニターツアーによる体験メニュー化の支援</li> <li>・受入環境の向上のため、国立公園内の遊歩道や標識等の再整備</li> <li>・満喫プロジェクト推進事業の連携強化とレベル向上のため、活動団体等を対象とした研修会の開催</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・自然公園を活用した誘客の取組に支援する補助制度を創設				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	III-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用
2	上位の施策	I-2-(2) 観光の振興	4	上位の施策	III-3-(1) 稼げるまちづくり

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	大山隠岐国立公園関係市町村及び周辺宿泊拠点の外国人宿泊者推計【前年度1月～当該年度12月】	目標値		61,000.0	21,000.0	40,000.0	65,000.0	85,000.0	人	単年度 値
		実績値	64,997.0	7,589.0						
		達成率	—	12.5	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山隠岐国立公園の関係市町村(松江市、出雲市、大田市、美郷町、飯南町、隠岐の島町、海士町、西ノ島町、知夫村)と島根県東部(安来市、雲南市、奥出雲町)を環境省が推計(過去の推計数値 H28 35,761人、H29 37,043人、H30 47,470人、R元 64,997人)</li> <li>・令和2年島根県観光動態調査結果の外国人宿泊客延べ数は、14,574人(前年と比べ85.1%減少)</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナを見据え、認知度向上のための島根の自然の魅力動画を国内外へ配信したデジタルマーケティング業務では、YouTubeの再生回数430万回を記録した</li> <li>・自然公園を活用した体験プログラムの開発やガイド養成などの取組を支援する補助金の公募を実施し、10事業を採択した</li> <li>・自然公園等の遊歩道や案内看板の整備を実施し、受入環境の向上が進んでいる。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で行われる自然体験プログラムが誘客になかなか結びついていない</li> <li>・県内の自然公園の認知度が低く、新型コロナの影響もあり来訪者は伸び悩んでいる</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な体験プログラム造成が不足しており、来訪者が長期滞在して楽しめるメニューが少ない</li> <li>・地元を紹介するガイドの不足</li> <li>・自然体験に興味があるターゲットに情報が届いていない</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験プログラム造成やガイド養成の取組をさらに進めるため、関係機関と連携し、補助金による支援を推進する</li> <li>・案内看板や自然歩道の整備と維持管理を行い、来訪者に安全・安心、快適に利用してもらえるように環境を整える</li> <li>・自然公園の効果的なPRや広報を行い、国内外への情報発信を強化する</li> </ul>

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

環境政策課

事務事業の名称		宍道湖・中海賢明利用推進事業			
目的	誰(何)を対象として	県民、民間団体等	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どのような状態を目指すのか	宍道湖・中海において、ラムサール条約の趣旨である「環境の保全・再生」と「賢明な利用(ワイズユース)」に対する地域住民の意識高揚を図る。		6,728	5,722
今年度の取組内容	①水辺に親しむ環境学習・普及啓発事業 人の五感による湖沼環境評価調査、小中学生による流入河川調査 ②ラムサール・大型水鳥啓発事業 ラムサール関連イベント(子どもラムサール交流会、中海・宍道湖一斉清掃 等) 大型水鳥を活用した普及啓発(水鳥観察会、パネル展示会等) ③大型水鳥を活用した広域ネットワーク支援事業(トキ、コウトリを活用した広域連携ネットワーク活動の支援)				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・公共施設や集客施設において、パネル展示会を開催 ・ドローン撮影による賢明利用スポットを紹介する動画の制作・放映				
1	上位の施策	Ⅵ-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策	Ⅲ-2-(2) 世界に誇る地域資源の活用	4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	宍道湖・中海賢明利用スポット来訪者数 【前年度1月～当該年度12月】	目標値		276,000.0	282,000.0	288,000.0	294,000.0	300,000.0	人	単年度値
		実績値	332,438.0	231,630.0						
		達成率	—	84.0	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		①五感による湖沼環境調査	モニター数(人・団体)	R1:62	R2:85					
		②小中学生等による流入河川調査	実施団体数(団体)	R1:32	R2:37					
		③中海宍道湖一斉清掃	参加人数(人)	R1:6,665	R2:中止					
		④ラムサール関連イベント	実施イベント数(回)	R1:1	R2:1					
		⑤大型水鳥関連イベント	実施イベント数(回)	R1:8	R2:5					
		⑥賢明利用関連普及啓発	広報数(回)	R1:6	R2:10					

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	両湖のラムサール条約登録15周年に合わせて、パンフレットの更新、多言語化や動画を制作するなど、普及啓発媒体の充実を図った。 ○パンフレットの更新(ラムサール条約登録15周年記念イベントの様子を追加記載) ○多言語化(簡体字、繁体字、韓国語、ポルトガル語、英語のパンフレット作成) ○両湖の魅力映像の制作 ・マガン～宍道湖～ ・コハクチョウ～宍道湖～ ・宍道湖のじみ漁 ・宍道湖西岸空中散歩 ・宍道湖伝統漁法～秋鹿～ ・中海空中散歩～安来港・飯梨川河口～ ・中海・宍道湖ラムサール条約15周年イベント
課題分析	①課題	「目的」達成のため(又は達成した状態を維持するために)支障となっている点 賢明利用スポット(※)の存在を知らない人や、知ってはいるが行かない(行けない)人に向けて宍道湖・中海の魅力を伝えること。 ※賢明利用スポット 湖の環境を守りながら、湖から得られる様々な恵みを持続的に活用できる公園・施設のこと。 島根県観光動態調査により来訪者数の把握が可能な以下の施設等を代表的な賢明利用スポットとしてKPIでカウントしている。 (松江市) ・宍道湖遊覧船 ・秋鹿なぎさ公園 ・道の駅本庄 (出雲市) ・宍道湖グリーンパーク ・ゴビウス ・出雲市トキ学習コーナー ・出雲市トキ一般公開施設
	②原因	・賢明利用スポットの存在や魅力についての周知不足及び新型コロナウイルスの影響による来訪者数の減。
	③方向性	・パネル展示や両湖の魅力を収録した動画の制作、配信により、両湖の認知度の向上及び賢明利用スポットへの来訪者数の増加を図る。

# 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

農林水産総務課

事務事業の名称		野生鳥獣保護対策事業			
目的	誰(何)を対象として	野生鳥獣	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	野生鳥獣が適正に生息する豊かな環境を守り育てることにより、自然環境の恵沢を享受できる県民生活の確保と地域社会の健全な発展を図る。		49,203	29,732
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>野生鳥獣の保護を図り、自然の恵沢を享受できる環境を整えるために、鳥獣保護区等の指定をする。</li> <li>野生鳥獣の生態や行動等を考慮した対策を講じるため、鳥獣専門指導員を配置し、地域での対応や県民への啓発等を行う。</li> <li>野生鳥獣の保護管理と有効な被害対策や狩猟の適正化を図るために、野生鳥獣の生態や行動等の調査を行う。</li> <li>鳥獣保護行政の円滑な推進のために、鳥獣保護管理員の配置</li> <li>鳥獣保護に対する理解を深めてもらうため、野鳥観察会、愛鳥週間の取組、傷病鳥獣の救護などを行う。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得よう努める。</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	鳥獣保護区指定箇所【3月末時点】	目標値		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	箇所	累計値
		実績値	80.0	80.0						
		達成率	—	100.0	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>■鳥獣保護思想の意識啓発 ○野鳥観察会の開催(年2回:参加者のべ52人) 愛鳥週間のポスター募集(応募:283点) ○傷病鳥獣の救護事業(R2:10件)</li> <li>■ツキノワグマの保護・管理 ○捕獲個体(R2:352頭)については、県民の安全・安心の確保の観点から、「第一種特定保護管理計画」に定めるゾーニング手法により、放獣等(83頭)・殺処分等(269頭)を行った。</li> <li>■出雲北山地域のニホンジカの管理:適正水準の180頭に向け362頭の個体数調整捕獲を実施</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護思想普及啓発活動や傷病鳥獣の救護、保護管理のための生息状況の把握、分析・検討等取組を通じ、鳥獣保護に対する理解が得られ、計画どおりの保護区設定ができた。</li> <li>ツキノワグマの管理・保護については、市町村との合意形成を図りながら、放獣・殺処分の対応、また被害管理を円滑に実施した。</li> <li>R2に山口県、広島県と共同でツキノワグマの生息頭数調査を実施した。</li> <li>出雲市北山地域のニホンジカについて、農業者等への指導支援を目的に、農業者団体を主体とする被害対策連絡会議を実施し、今後の被害対策について理解を得た。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護区周辺での野生鳥獣による農作物被害が発生し、保護区の設定についての住民理解が得られにくくなっている。</li> <li>ツキノワグマが誤ってイノシシ用のわなに掛かってしまう(錯誤捕獲)の発生が多く、捕獲者に対して錯誤捕獲をしない箱わなへの脱出口の設置の理解が得られにくい。</li> <li>ツキノワグマの適切な保護管理を進める上で、次期計画策定の基礎となる最新の生息頭数が不明。</li> <li>出雲北山地域のニホンジカの保護・管理について目標頭数180頭に達していない</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>設定した鳥獣保護区周辺の荒廃した里山や耕作放棄地に定着した野生鳥獣の出没が増加。</li> <li>錯誤捕獲をしないための箱わなへの脱出口の設置は、本来の捕獲対象であるイノシシも脱出する不安の払拭が難しい。</li> <li>出雲北山地域のニホンジカについては生息頭数が減少し、捕獲効率が落ちている</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥獣保護区設定の説明会において、引き続き鳥獣保護に対する住民理解を得よう努める。</li> <li>鳥獣保護区及びその周辺での鳥獣による農作物被害に対しては、捕獲等の被害防止対策を推進。</li> <li>錯誤捕獲を低減するための研修会などを実施し、放獣に対しても理解を得る。</li> <li>鳥獣保護区の管理や鳥獣思想の普及啓発のため、鳥獣保護管理員の委嘱。</li> <li>ツキノワグマの保護・管理は、捕獲個体の放獣と殺処分などバランスを取りながら取り組むとともに生息数調査を実施し、次期計画策定の基礎資料を得る。</li> <li>出雲北山のニホンジカについては効率的な捕獲方法・体制を検討し、目標頭数180頭の達成を目指す。</li> </ul>

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課

産地支援課

事務事業の名称		花ふれあい公園事業					
目的	誰(何)を対象として	県民		事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額	
	どのような状態を目指すのか	・県民の花に親しみ、ふれあえる暮らしの実現 ・花きの消費拡大及び生産振興			94,836	85,135	
今年度の取組内容	花ふれあい公園の指定管理者に管理業務を委託し、以下の取組を実施。 ・四季折々の花の企画展示や体験企画など、県民が花に親しむ機会を提供 ・県の主力花き(キク、バラ、トルコギキョウ、ボタン、あじさい、シクラメン)を中心とした企画展示や県オリジナル品種の情報発信						
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・SNSによる情報発信および他施設との連携によるPRの強化						
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用		3	上位の施策		
2	上位の施策			4	上位の施策		

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上分類
1	販売額1,000万円以上の中核的経営体の育成数(R2年度からの累計)【当該年度4月～3月】	目標値		78.0	156.0	223.0	298.0	402.0	経営体	累計値
		実績値	(新規事業)	22.0						
		達成率	—	28.3	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		県内産の花苗、鉢花の植栽利用率99.3%								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	・例年入園者の多い4、5月に新型コロナウイルスの感染拡大防止のための休館があり、令和2年度入園者数は43,665人(昨年度比44.6%減) ・県の主力花き(キク、バラ、トルコギキョウ、ボタン、あじさい、シクラメン)の展示、紹介等の回数は6回(延べ88日)の状況
課題分析	① 課題	・花きの担い手育成に直接的に寄与しない ・花きの消費拡大、生産振興に直接的に寄与しない
	② 原因	・公園としての利用が主で花に親しむ機会の提供にはつながっているものの、花き生産者の研修や展示場所としての利用が少ない
	③ 方向性	・花き品評会等での利用・展示や研修室の外部への貸出を行う。 ・県のオリジナル品種等の情報発信による、島根の花きの価値の底上げと、それに伴う販売額の増加

## 事務事業評価シート

## 1 事務事業の概要

担当課 水産課

事務事業の名称		宍道湖自然館管理運営事務			
目的	誰(何)を対象として	一般来館者、一般県民	事業費 (千円)	昨年度の実績額	今年度の当初予算額
	どういう状態を目指すのか	島根の汽水・淡水域に生息する水生生物を中心とした展示及び調査研究を通じて、島根の豊かな自然について、楽しみながら学ぶ機会を提供する。		129,190	120,103
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症拡大防止対策を実施し、感染リスクを下げる展示手法を取り入れた、安心安全な施設サービスの提供。</li> <li>・指定管理者が隣接地で運営する宍道湖グリーンパーク(鳥や昆虫の観察等)と連携した活動の推進及び情報の発信。</li> <li>・関係機関と連携した教育普及プログラムの開発協議の実施。</li> <li>・今後の展示設備の在り方について、指定管理者と連携した施設整備及び改修の検討。</li> </ul>				
昨年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休館期間を活用し、展示水槽の設置配管の見直しや、接触による感染リスクを下げる新たな展示手法を取り入れ、展示の魅力を増進した。</li> <li>・パネルの館内掲示や、パーテーションを活用した感染症予防対策を実施し、感染リスクを下げる取組を積極的に行った。</li> </ul>				
1	上位の施策	VI-4-(1) 豊かな自然環境の保全と活用	3	上位の施策	
2	上位の施策		4	上位の施策	

## 2 KPI(重要業績評価指標)の状況

KPIの名称		年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	単位	計上 分類
1	ゴビウス入館者数【当該年度4月～3月】	目標値		120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	120,000.0	人	単年度 値
		実績値	138,820.0	74,505.0						
		達成率	—	62.1	—	—	—	—		
2		目標値								
		実績値								
		達成率	—	—	—	—	—	—		
KPIの他に参考とすべきデータや客観的事実		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館実施。(令和2年4月10日～5月17日)</li> <li>・感染拡大の恐れがあるイベントは中止し、館内の感染症拡大防止対策を実施の上、感染リスクを下げる展示手法を取り入れた安心安全な施設サービスを提供した。</li> </ul>								

## 3 現状に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組による改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時休館期間を活用し、展示水槽の大きかりな設置配管の見直しや、接触による感染リスクを下げる新たな展示手法を取り入れ、展示の魅力化を図った。(中庭池のアカミミガメ池の設置位置を見直し、カメの生態が観察しやすい展示に改良。壁面を利用したキッズコーナーの設置、自動スタンプ機を利用したクイズの実施。)</li> <li>・ソーシャルディスタンスの確保を呼びかけるオリジナル注意喚起パネルの館内掲示や、パーテーション設置によるレクチャールームスペース拡充対策を実施し、感染症予防対策を積極的に行った。</li> </ul>
課題分析	① 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集客施設として魅力を支える展示設備が陳腐化。</li> <li>・指定管理者が今後一層のサービス向上を図っていくための人員体制が不十分。</li> <li>・団体利用時に使用できるレクチャールームが一箇所しかないため、学校等の団体受け入れを制限しなければならない状況が発生。</li> </ul>
	② 原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あそびっ湖まなびっ湖ひろば」以外の展示設備は、平成13年度の開館当初から未改修。</li> <li>・館内施設の老朽化が進み、修繕費のランニングコストが増加。特に給排水・電気設備等の機械設備の老朽化が著しく、緊急修繕が必要な状況が発生。</li> <li>・教育普及サービスを求める団体客の受け入れに必要なレクチャールームのスペースが不十分。</li> <li>・館内サービスの充実に加えて、講師派遣により地域への貢献の場を広げているが、対応できる職員数が限定的。</li> </ul>
	③ 方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者の多くを占めるリピーターの満足度向上を目指し、定期的に新たな展示を導入。</li> <li>・限られた職員による効率的な運営を実施し、職員のさらなるスキルアップを推進。</li> <li>・関係機関との連携及び地域住民、ボランティアとの関係強化を図り、新たな教育普及メニューの開発及びサービスの充実を実施。</li> <li>・館内施設の老朽化の現況を調査・確認し、長寿命化計画に盛り込むことで、施設の安全維持のために必要な修繕の計画的な実施。</li> <li>・団体受け入れ時に利用可能なスペースの確保のため、館内スペースの利用方法及び近隣施設の活用を検討。</li> </ul>